

2026 年度立教大学一般入試 「数学（理系）」入試問題 出題意図

数学（理系）では、大問 I の小問群、大問 II・III の論述問題、および数学科向けの大問 IV を出題した。出題範囲である数学 I、数学 II、数学 III、数学 A、数学 B、数学 C における数学的知識の正しい理解を測るため、各分野からまんべんなく問題を出題した。

特に、大問 I（小問群）では当該分野における計算能力を、大問 II・III では論理的根拠に基づいた数学的論述能力を測ることを目的としている。また、数学科向けの大問 IV では、数学科の学生に必要な論証力を測るための問題を出題した。

2月6日 実施分

- I. 数と式、対数関数、複素数平面、ベクトル、統計的な推測の各分野について計算を正しく行えるかを問う。
- II. 試行に伴う確率が漸化式を用いて表される場合に、試行の推移を論理的に考察する力を問う。
- III. 図形の面積や回転体の体積の計算を通して微積分に関する基礎知識を確認し、正確な計算力を測る。
- IV. 定積分の基本的な性質の理解が定着しているかを問う。また、定積分と不等式の関係から、無限級数の和を導く総合的な思考力を問う。